熊谷市
記者クラブ取材情報

令和3年11月26日発表
担当課:熊谷図書館

タイトル
～作家・森村誠一が選ぶ～第10回くまがや「写真俳句」コンテスト 特選・入選作品の展示及び表彰式

1. **展示期間**　令和３年１２月１４日（火）から１２月２６日（日）
９時から１７時（月曜日は休館日）

表彰式　令和３年１２月１９日（日）１４時

2. **展示場所**　熊谷市立文化センター１階・市民ギャラリー（熊谷市桜木町2-33-2）

表彰式会場　熊谷市立文化センター４階・第一講座室

3. **事業概要**

（内容）
熊谷市出身の作家・森村誠一氏が提唱する「写真俳句」を「～作家・森村誠一が選ぶ～くまがや『写真俳句』コンテスト」として平成２４年から実施して、今年で１０回目となりました。
応募者は、北は北海道から南は九州、年齢は下が６才から上は８７才の幅広い年齢層となり、中学生以下のジュニアの部で１，０５９点、一般の部で８６２点、合計で１，９２１点の応募がありました。この中から森村誠一氏、写真俳句連絡協議会及び熊谷市立図書館の選考を経て、特選５作品、入選２０作品、入選作品の中から熊谷市を題材にした優秀３作品に熊谷賞が決定しました。
また、入賞作品は、１２月１日（水）から熊谷市ホームページ内「WEBくまがや写真俳句館」で掲載します。

4. **特徴やPRポイント**

くまがや「写真俳句」コンテストを通じて、「文学のまち」としての熊谷市を全国に発信しています。「写真俳句」の提唱者でもある熊谷市出身の作家・森村誠一氏が選者を務めるほか、賛助作品の提供や特選作品への森村評をしていただくなど、同氏から全面的に御協力をいただいています。

5. **その他**

主催：熊谷市・熊谷市教育委員会

※ 資料の有無（ (有) ・ 無 ）

担当者　市立熊谷図書館　西村陽子・青木新一・飯島志保
連絡先　０４８－５９８－４８８５

～作家・森村誠一が選ぶ～

第１０回くまがや「写真俳句」コンテスト

－特選・入選作品－

「写真俳句」とは、熊谷市出身の作家・森村誠一氏が提唱する、写真と俳句・川柳などを組み合わせた新しい表現手法です。熊谷市では平成２４年から～作家・森村誠一が選ぶ～くまがや「写真俳句」コンテストを開催し、今年で１０回目となりました。国内では北は北海道から南は九州、また下は６才から上は８７才まで、１，９２１作品の応募をいただきました。この中から森村誠一氏、写真俳句連絡協議会、熊谷市立図書館の選考を経て特選５点、入選２０点が決定しました。作品は次のとおり展示します。また「ＷＥＢくまがや写真俳句館」にも作品を掲載しています。

○期間／１２月１４日（火）～１２月２６日（日）９：００～１７：００

○会場／熊谷市立文化センター１階市民ギャラリー　※月曜日は休館日

特　選

講評は森村誠一氏よりいただいています。



目指す先同じと示す雲の腹　松崎たか子

講評：雲の流れに揺蕩（たゆた）う未来がある



春風に背中押される意気地なし　鈴木ふゆ

講評：春深し行く宛もなく漂うて

【ジュニアの部】



夏の田やおにぎりまでの長い道　藤倉大智

講評：目に見える状況だけでなく、
そこから始まる物語が表現されている



秋冷（しゅうれい）やむすんでひらいてまた来年　高田ふみ子

講評：来夏も咲く、思い続けて明日は見える



春隣（はるとな）り体重計にこそと乗り　川島幸子

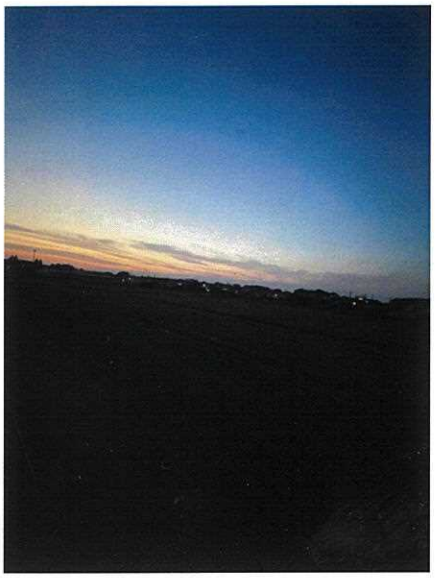
講評：風が光る、不機嫌な重ね着を解く日となる

入選　【一般の部】

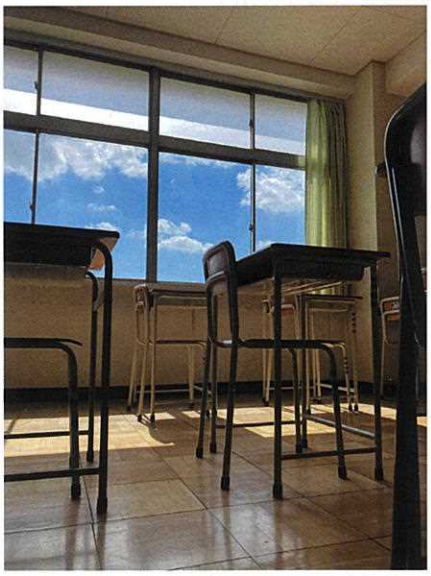
〈熊谷賞〉



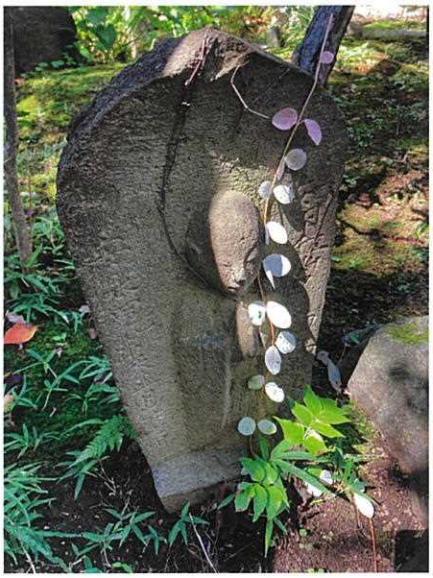
親元をはなれて歩む春の友　鵜飼恵理



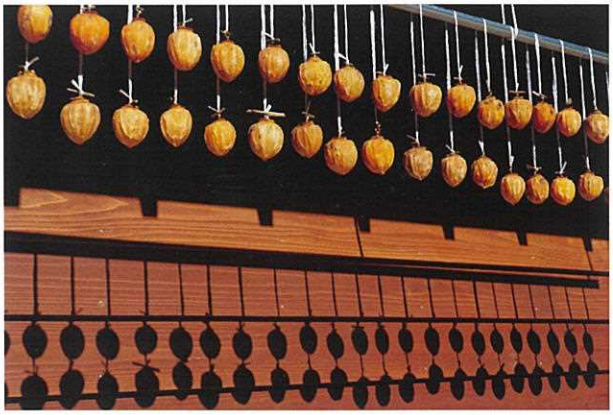
大丈夫リセットしてさ次の日へ　原田鈴菜



秋風に運ばれ香る金木犀（きんもくせい）　松本渚咲



蔦一縷袈裟（つたいちるけさ）の模様を足しにけり　田中　学



干し柿の影も楽しむ待ち時間　杉田絵里



汗流し６年越しの恩返し　渡辺光弥

入　選　【一般の部】



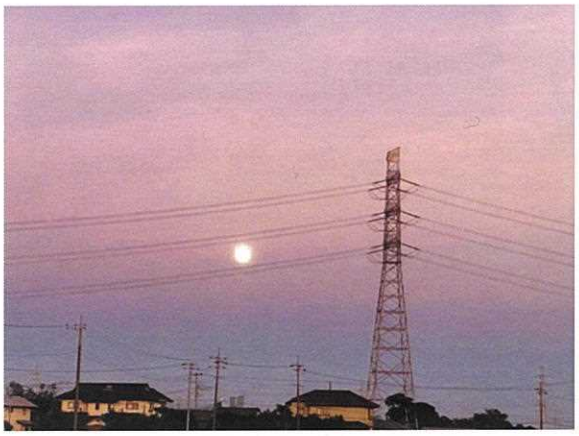
泣いていい落ち込んでいい今日だけは　松浦直美



夏の海行ったつもりの琥珀糖　平井智菜



君のいないピントも合わない夏夜景　岸亮太朗



五線譜の音符のような月うさぎ　根岸智子



まだ青い隣の彼と過ごす秋　中川真実



家族とはいちばん密な夏休み　河村莉帆

入　選　【ジュニアの部】



まーだだよはずかしがりやの花みっけ　岩田鈴音



川あそび石のせいれつ前ならえ　永吉瑛真

入　選　【ジュニアの部】

〈熊谷賞〉

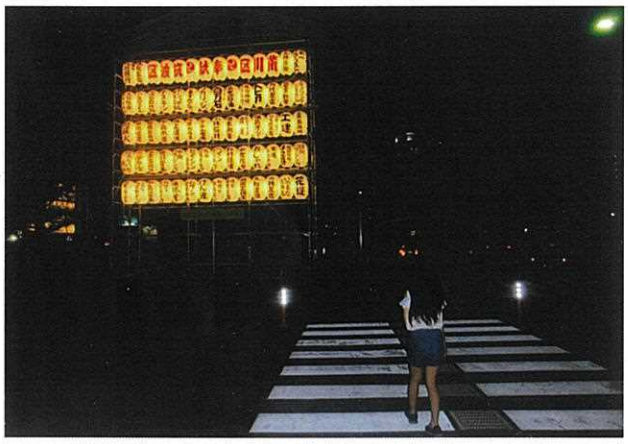
来年は山車引く父を見れるかな　飯田恵都



暑い夏みんなの帰りを待っている　大島飛祐



〈熊谷賞〉



駅前のむく鳥だけがさわぐ夏　谷　芽在



幸せを見つけられるまで終われない　竹内咲葉



こぼれ種夏のおわりに咲く心　増田衣桜



つゆきらりママにあげたいイヤリング　宮城叶梛

～お知らせ～

このたびのコンテストにつきまして、下記のとおり表彰式を行います。

○日時　令和３年１２月１９日（日）１４：００～

○会場　熊谷市立文化センター４階　第一講座室

※このチラシは 1,500 枚制作し、制作費用は１枚当たり 15 円です。

～作家・森村誠一が選ぶ～

第10回くまがや「写真俳句」コンテスト

森村誠一氏　賛助出品作品

－ 写真で記録、俳句で記憶、写真俳句は日常から始まる －



梅が香を煮つめる藍や星を溶く



風走る照らす者なき商店街



またの日もありと思へと鰯雲

写真俳句とは

　写真と俳句、写真と川柳など五七五の十七音からなる日本語の定型詩を組み合わせた新しい表現世界です。俳句だけでは伝えられない、写真だけでは伝わらない、そんなイメージの世界を創り上げるのが写真俳句です。



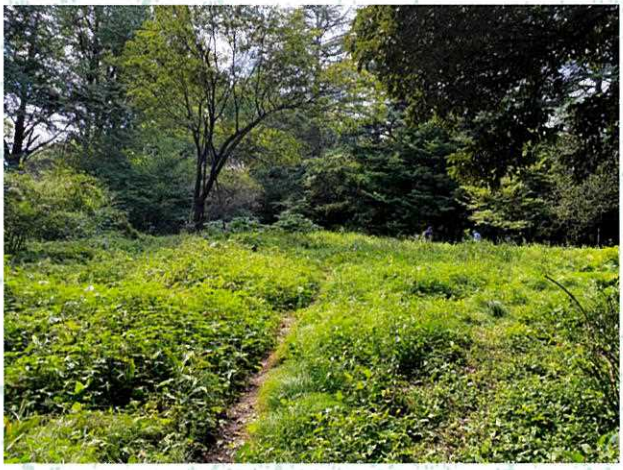
飛行雲夕陽を浴びて燃え尽きぬ



花の香と競い立ちたり雲の丈



初デート二人分の実りあり

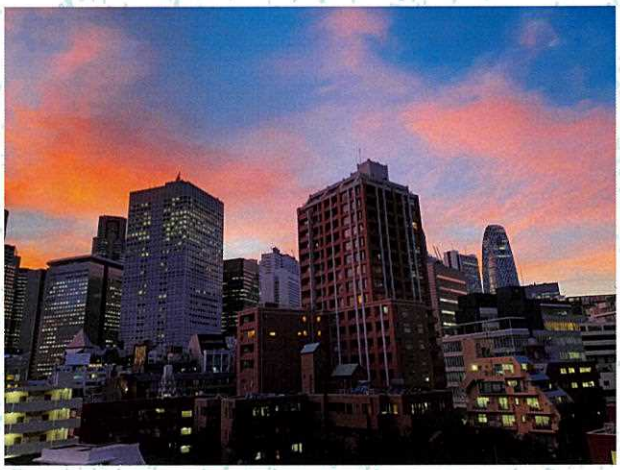


清々と息つきたきや現代人

本郷恵理（写真俳句連絡協議会 審査員）
祖母の影響で俳句をはじめ、コンテストを契機に森村誠一氏に指導を受けている。
吟色想句　本郷恵理の旅する写真俳句
https://giniro-soku.com/



喧噪もリズム刻んで春の宵



帰り道泣くか泣かぬか秋曇り

斎藤牧子（写真俳句連絡協議会 審査員）
小説講座受講時、森村誠一に写真俳句の才能を見いだされ森村氏に師事している。
吟行恋句　斎藤牧子の恋する写真俳句
https://saito-makiko.com/



吹きすさぶ高きに登り小宇宙



秋雨やエスプレッソのよく似合ひ

※このチラシは 1,500 枚制作し、制作費用は 1 枚当たり 10 円です。